

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和6年4月26日現在

研究課題名	近代日本の歴史像に関する再検討ー境界／周辺地域からのアプローチ	
申請者	氏名	所属機関・職
	山田 良介	九州国際大学・教授

研究成果の概要

今回の研究は、近代日本の歴史像について北海道と北部九州という「周辺地域」からとらえ直す作業として、北海道大学附属図書館に収蔵されている北海道の自治体史や関連資料の収集をおこなった。また、北部九州に関しては大牟田市立図書館などで三池炭鉱の歴史に関する資料についての調査をおこなった。また、1960年代末から活発化していく地域の歴史の掘り起しの動きにも留意した。

北海道においては1960年代末より小池喜孝や北海道歴教協により民衆史への関心がたかまり、当事者や地域住民の証言をもとに、囚人労働やタコ労働、戦時中の朝鮮人・中国人労働などにまつわる地域の歴史が明るみになっていく。また、北方少数民族ウイグルの歴史にも光があてられるなど、国家中心の歴史像とは異なる境界／周辺地域特有の歴史像が浮き彫りになっていった。この動きは、『新留辺蘂町史』（1985年）のような自治体史の叙述にも影響を与えた。

三池炭鉱をめぐっては、60年代末に三池労組関係者たちにより大牟田囚人墓地保存会が結成され、かつての囚人労働に関心が向けられることになる。また、地元の歴史研究者である武松輝男や新藤東洋男などにより、与論島出身者たちの歴史や戦時中の朝鮮人・中国人労働などについても明らかにされていく。第2次世界大戦期における朝鮮半島からサハリン（南樺太）・北海道の炭鉱、さらに福岡の炭鉱へと移動する人の動きについては、先行研究もあるが実態についてはさらに調査をすべき部分もある。

今回の研究成果の一部は、山田良介・花松泰倫編（仮題）『ダークツーリズムを超えてー北海道と九州から考える』（北海道大学出版会、2024年9月刊行予定）にて紹介される予定である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

なし

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

なし